令和元年度

春日市文化財年報

２０２１

春日市教育委員会

序

春日市は福岡市の南東に隣接しており、恵まれた立地から昭和の高度経済成長期以降、住宅都市として発展しています。昭和47年の市制施行時に、約5万人であった人口は増加の一途をたどり、現在では14.15㎢の面積に約11万人が暮らす、九州で2番目に人口密度の高い市となりました。一方で、市内には“弥生銀座”といわれるほど弥生時代の遺跡が密集しており、国内でも有数の発掘調査成果を挙げております。

本年度は、奴国の青銅器官営工房と称される須玖岡本遺跡坂本地区と最古級の青銅器鋳型が多数出土した須玖タカウタ遺跡の青銅器生産に関連する遺物・青銅器・土器等209点が春日市指定文化財に指定されたことを記念して、令和2年度トピック展示「市指定化記念展～須玖岡本遺跡坂本地区・須玖タカウタ遺跡～」を行いました。

本書は、令和元年度に実施した市内における埋蔵文化財の発掘調査及び奴国の丘歴史資料館の資料館事業の概要をまとめたものです。本書が広く一般に活用され、市民の方々が文化財への理解を深めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の調査及び資料館事業において御協力をいただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

令和3年3月31日

春日市教育委員会
教育長　扇　弘　行

目　　次

Ⅰ　文化財保護事業の現状と組織……1
Ⅱ　発掘調査の概要
　1　平若C遺跡（3次調査）……2
　2　比恵尻遺跡（2次調査）……5
　3　寺屋敷A遺跡（2次調査）……7
　4　仁王手B遺跡（5次調査）……10
　5　須玖楠町遺跡（3次調査）……13
　6　寺田・長崎遺跡（11次調査）……16
　7　中白水遺跡（16次調査）……19
　8　須玖岡本遺跡岡本地区（22次調査）……22
Ⅲ　文化財普及啓発事業
　1　企画展示等
　　①トピック展示「須玖岡本遺跡20次調査の銅剣と把頭飾」……24
　　②考古企画展「小水城を発掘する」……24
　　③民俗企画展「灯りのかたち」……24
　　④奴国の丘歴史公園絵画展・記念物100周年展……24
　2　やきものづくり教室……25
　3　プラかすが（歴史散歩）……25
　4　わくわく歴史体験（歴史体験教室）……25
　5　奴国の丘フェスタ……26
　6　学習支援活動……26
　7　博物館実習……26
　8　出前講座等……27
　9　ボランティア組織……27
　10　資料貸出……27
　11　入館者数……27
　12　利用案内……27
Ⅳ　附編（調査・研究報告）
　1　須玖タカウタ遺跡4次調査石製鋳型の追加資料……28
　2　民俗文化財の保存・活用……29

例　　言

1　本書は、春日市教育委員会文化財課が、令和元年度に行った文化財事業の概要をまとめたものである。
2　本書の作成は、担当者が分担して行った。
3　本書に使用した各種図版の作成は、稲永美紀、吉村美保が行った。
4　本書に使用した写真の一部は、有限会社 空中写真企画の撮影による。
5　発掘調査の概要については、文末に報告者名を記した。

Ⅰ　文化財保護事業の現状と組織

春日市では昭和52年以降、埋蔵文化財の保存、保護に伴う発掘調査体制を発足させ、整備を行いながら今日に至った。土木、建築工事等による埋蔵文化財の破壊を避けるために事前審査を行い、現状での保存ができない埋蔵文化財については発掘調査による記録保存を行っている。

令和元年度の開発事前審査における文化財有無の問い合わせ件数は1681件、事前審査のうち試掘・確認調査は75件であり、前年度の件数と比較すると、問い合わせ件数が増加している。開発内容は、共同住宅建設が30件（40%）、個人住宅件数が31件（41%）で、その他の14件を含めると申請件数の約8割が住宅建設に伴うものである。

このうち埋蔵文化財が確認され、文化財保護法第93・94条の規定に基づき本調査を行うようになったものは9件、工事立ち合いで対処したものは34件である。埋蔵文化財が確認されず、慎重工事で対処したものは38件である。

文化財普及啓発事業では、平成30年度に実施した特別史跡大土居水城跡と天神山水城跡の発掘調査の成果展として考古企画展「小水城を発掘する」を行った。このほか、市内外への文化財の啓発のため第9回奴国の丘フェスタを開催した。本年も地域住民と共同して行うために実行委員会を立ち上げ、市民目線の意見を取り入れながら実施した。さらに、市内小学校の授業や自治会主催のイベント支援、他博物館資料館への資料貸出等、文化財の活用に努めた。

令和元年度の文化財行政にかかる組織体制は次の通りである。

教育長　山本直俊

教育部長　神田芳樹

文化財課長　神崎由美

整備活用担当	統括係長	髙田博之	調査保存担当	課長補佐	中村昇平
	主　査	森井千賀子		主　査	吉田佳広
	主　査	大原佳瑞重		主　査	井上義也
	主　査	飛永宗俊		主　任	山崎悠郁子
	嘱託職員	和田奈緒		主　事	熊埜御堂早和子
	嘱託職員	川畑慶紀（～6月）		嘱託職員	種生優美
	嘱託職員	坂井和彦（7月～）		嘱託職員	川村　博
				嘱託職員	尾方禎莉（～11月）

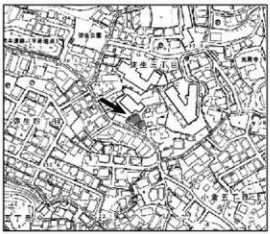
Ⅱ　発掘調査の概要

1　平若Ｃ遺跡（３次調査）

所 在 地　春日市弥生３丁目70番

調査面積　353㎡

調査期間　2019年４月15日～2019年７月４日



1．調査地の位置（1/5000）

平若Ｃ遺跡は春日丘陵の北部に位置し、遺構面の標高は32.6ｍである。本遺跡は弥生時代を中心とする遺跡が多く確認される須玖遺跡群内に所在する。過去の調査では円形や方形の竪穴建物跡をはじめ、土坑や溝などを確認した。中には後期初頭頃の青銅器やガラス生産工房と考えられる竪穴建物跡がある。また、２次調査の調査区西部で大溝を確認した。

今回の調査は、２次調査の南側に隣接しており、住宅建設に伴う緊急発掘調査である。

2．調査区全景（上が北）

遺構・遺物

３次調査では、竪穴状遺構１軒、土坑４基、溝５条、ピットを検出した。

調査区の北西部から南東部にかけて確認された大溝（１号溝）は最大幅6.5ｍ、深さ最大1.4ｍで、調査区の中央を占める。溝の断面形はＶ字状をなし、弥生土器、須恵器、黒曜石、石器、鉄器などが出土する。床面からは弥生土器が出土し、須恵器は溝の上層からのみ出土する。鉄器は溝の下層から出土した。

１号溝の北西側および北東側でピットや土坑を検出し、その半数から土器小片が出土した。４号土坑は調査区北東部で確認され、約1.6×0.68ｍ、深さは最大0.75ｍを測る。スロープを持つことや単独で存在することから、立柱遺構の可能性が考えられる。

調査区南西部壁際で、住居跡の可能性がある竪穴状遺構を確認した。約5.4×２ｍを測り、弥生土器および土器小片が出土している。

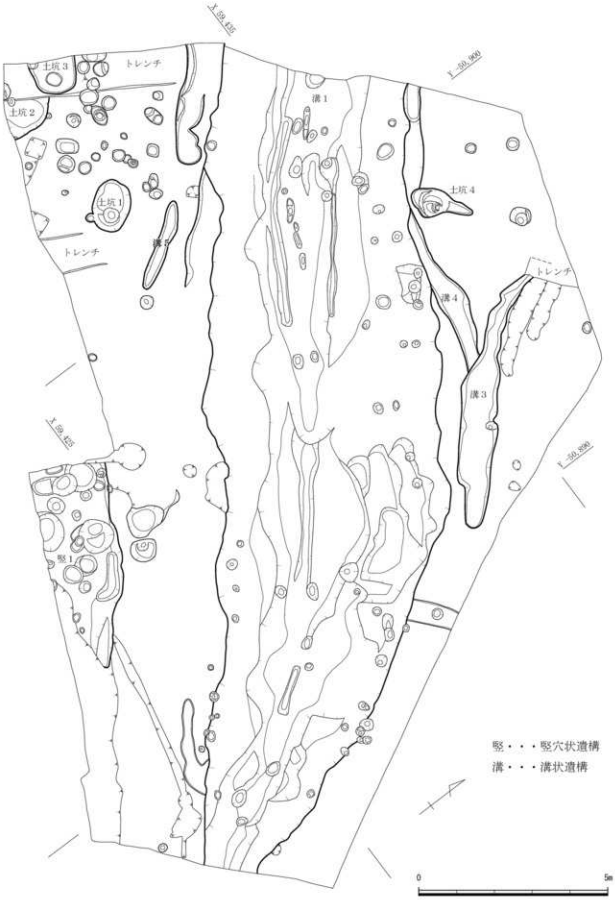
小　結

今回の調査では、調査区の中央を大溝が占め、２次調査で検出された大溝がさらに南に続くことを確認した。また、過去の調査で大溝の北側から北東側にかけて竪穴建物跡が見つかっていることから、この大溝は集落を囲む環濠と考えられ、さらに広範囲にわたって集落を囲むことが想定される。今回の大溝の発見は、周辺遺跡の調査・研究に影響を与えるだろう。また、集落を囲う大溝の規模については今後の調査に期待したい。（熊埜御堂）

３．１号溝土層断面（南東から）

４．１号溝鉄器出土状況（東から）

５．１号竪穴状遺構（上が北）



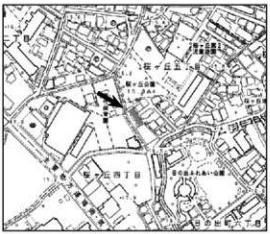
6．遺構配置図（1/100）

2　比恵尻遺跡（２次調査）

所 在 地　春日市桜ケ丘５丁目６番、７番

調査面積　145 ㎡

調査期間　2019 年５月７日～７月 19 日



１．調査地の位置（1/5000）

比恵尻遺跡は春日市北部の低地に立地する。標高は約 15 ｍで、覆土の状況から長期間、沼沢地であったことが分かる。平成 20 年度に南側隣接地において実施した１次調査では、弥生時代から中世にかけての粘土採掘坑を検出している。

今回の調査は、共同住宅の建設に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

２．調査区全景北半部（西から）

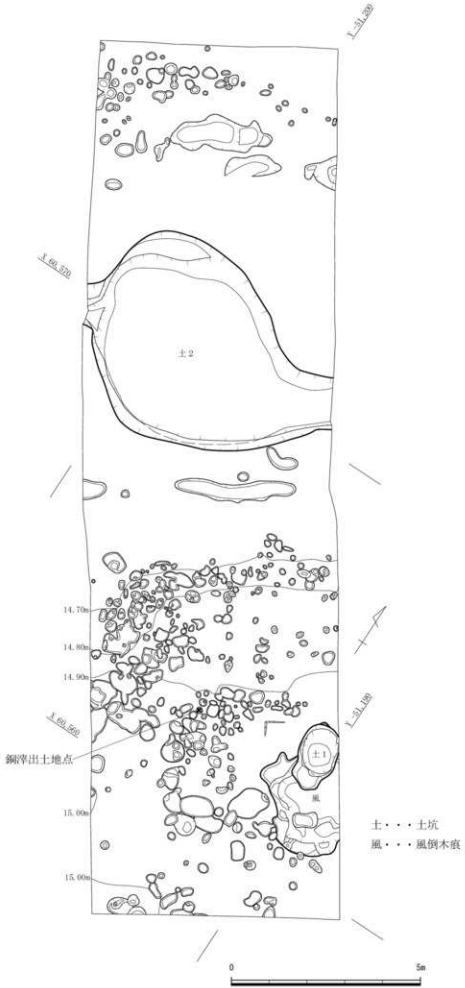
今回の２次調査では、隣接する１次調査地点と同様のピット群（粘土採掘坑か）や土坑を検出したが、出土遺物は更に少量となる。粘土採掘坑と考えられるピット群は、円形や楕円形を呈し、重なり合っているものが多数で新旧関係も不明確である。深さ５㎝前後のものが殆どで、後世の耕作などによって上面が削平され、穴の底部だけが残存したものと思われる。ピットの一つから銅滓１点が出土している。

１号土坑は調査区南側で検出し、直径約２ｍ、検出面からの深さ約１ｍを測る。埋土は腐植質を含む黒色粘質土で、遺物は確認されなかった。

調査区北側で検出した２号土坑は、１号土坑とは規模が異なり、直径約６ｍ、検出面からの深さ約１ｍを測る大きな遺構である。埋土は１号土坑と同じく黒色粘質土で、遺構底面の砂質土層からは水が湧き出し、常に水中ポンプを使用しての掘削作業となった。土坑の東端に取水口、西端に排水口とみられる部分が存在し、一時的な貯水場の可能性が考慮されるが、遺物が全く伴わないため時代の特定ができず、用途の詳細は不明である。

小　結

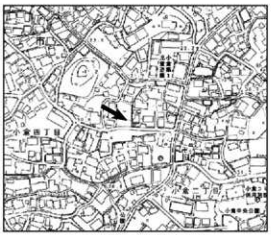
元来、水田として利用されてきた土地であるため、現在の地表面から約１ｍの深さまで削平を受けており、遺跡の残存状況が良くなかった。しかし、粘土採掘坑の検出という点から、当地域で良質な粘土が採取できたことが推測できる。目立った遺物としては、銅滓が１点出土しているが、沼沢地という立地環境からすると、当遺跡での青銅器生産は考えにくく、周辺の工房関連遺跡から持ち込まれた可能性が高い。（吉田）


X 51,420
X 60,570
土2
14.70m
14.80m
14.90m
X 60,560
X 51,430
鋼滓出土地点
土1
風
15.00m
15.00m
土・・・土坑
風・・・風倒木痕
0
5m

3．遺構配置図（1/100）

3　寺屋敷Ａ遺跡（２次調査）

所 在 地　春日市小倉４丁目 13 番
調査面積　225.69 ㎡のうち 31.5 ㎡
調査期間　2019 年５月 27 日～ 2019 年６月 17 日



１．調査地の位置（1/5000）

寺屋敷Ａ遺跡は、春日丘陵中央部の丘陵上に位置する弥生時代中期から中世の遺跡で、標高は約 30 ｍを測る。昭和 63 年に実施した１次調査では、丘陵の北側斜面に弥生時代中期～後期の土器包含層の上面から掘り込んだ地下式壙１基が検出された。地下式壙からは、火葬蔵骨器として使用したと考えられる 13 ～ 14 世紀の中国製褐釉壺と古瀬戸灰釉瓶子が出土している。

今回の調査は、宅地造成に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

今回の調査では、竪穴状遺構１軒、溝状遺構２条、ピット少数を検出した。

当該地の本来の地形は北西に向かって傾斜しており、弥生時代中期から後期を主体とした土器を多量

２．調査区全景（上が北）

に含む黒褐色粘質土が堆積していた。黒褐色粘質土の下には、淡褐灰色粘質土が堆積しており、竪穴状遺構とピットはこの層から切り込んでいた。

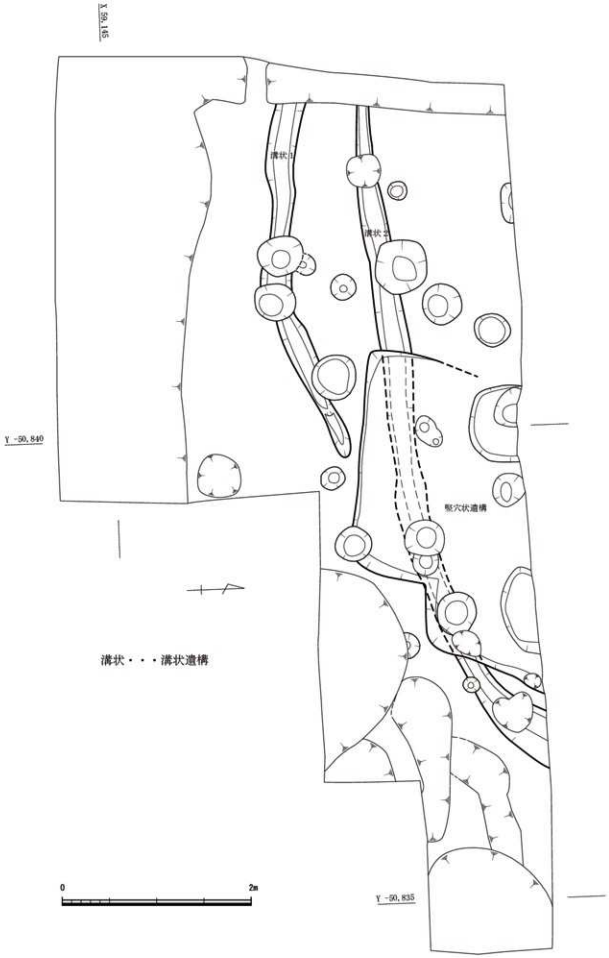
竪穴状遺構は調査区の北側で検出した。大半が調査区外に続くために断定はできないが、平面形は方形ないし長方形になると考えられる。幅2.4ｍを測り、出土遺物から弥生時代後期に造られたと判断される。溝状遺構２条は、幅30㎝のものが地形の落ち際に沿って東西方向に続いていた。ほとんど遺物を含まないため詳細な時期は不明だが、竪穴状遺構の下層で検出しており、弥生時代後期以前のものと考えられる。

小　結

今回の調査した範囲は非常に狭小で、遺構の性格を明らかにすることは難しかった。付近で古瀬戸の火葬蔵骨器が出土していたことから、中世の遺構を想定していたが、黒褐色粘質土中から弥生土器に交じって土師器の皿が少量出土したのみで、当該期の明確な遺構は確認していない。黒褐色粘質土の包含層に大型の甕や丹塗り土器、ミニチュア土器が含まれることから、当地周辺に存在した弥生時代中期から後期の集落や墓地が、弥生時代以降の開発の中で削平されたと考えられる。(山﨑)

３．調査区全景（北西から）

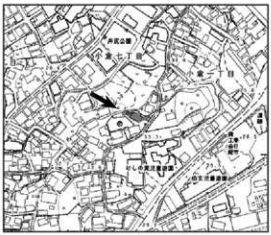
４．竪穴状遺構（北から）



5．遺構配置図（1/40）

4　仁王手Ｂ遺跡（５次調査）

所 在 地　春日市小倉７丁目104番
調査面積　252 ㎡
調査期間　2019年８月22日～12月９日



1．調査地の位置（1/5000）

仁王手Ｂ遺跡は春日丘陵のほぼ中央にあり、北東方に延びる小支丘上に占地する。標高は約36ｍを測る。これまでに４回の発掘調査を行い、弥生時代前期末から中期にかけての集落に伴うものと考えられる多くの貯蔵穴を確認したほか、古墳時代の竪穴建物跡や平安時代の木棺墓などが検出されている。今回の調査地点は、２次調査地と３次・４次調査地の間の鞍部となる位置で、仁王手Ｂ遺跡が展開する丘陵の北斜面の状況を確認した。後世の整地等により消滅した遺構も多数あると見られるが、全体的に遺構の密度は西側から東側に向かってやや濃密になる傾向がうかがえ、調査区の東部には弥生時代から古墳時代、平安時代にかけての土器を多く内包する遺物包含層が厚く堆積していた。今回の調査は集合住宅建設計画に伴って事前に実施した緊急発掘調査である。

2．調査区全景（西から）

遺構・遺物

今回の調査では、竪穴建物跡１軒、掘立柱建物跡１棟、石蓋土坑墓１基、土坑５基、溝状遺構５条、ピット多数を検出した。

調査区中央部の北壁際に検出した竪穴建物跡は１辺が約4.8ｍの四角形を呈する住居跡と考えられ、出土した土器や覆土の状況から弥生時代後期に造られたものと推察される。この竪穴建物跡や溝５など、調査区の北東部を覆う遺物包含層を切り込んで造られた石蓋土坑墓は、主体部である土坑の長さが約80㎝で、小児用の墳墓と考えられる。蓋石に板状の石材３枚を並べ、内部には少量の赤色顔料が撒かれていた。

3．石蓋土抗墓・４号土坑（西から）

掘立柱建物跡は４本柱で柱間の長さ約２.７ｍを測る比較的小型の建物で、出土遺物がほとんどないため正確な時期は不明である。１号土坑と３号土坑からは弥生時代中期前半の土器が出土した。２号土坑と４号土坑は、全く遺物の出土がなく時期不明だが貯蔵穴と考えられる。５号土坑は竪穴建物跡の底面で検出した。土坑というよりは大型の柱穴とすべき遺構で、検出面からの深さは90㎝を測り、直径25㎝の柱痕が確認されている。

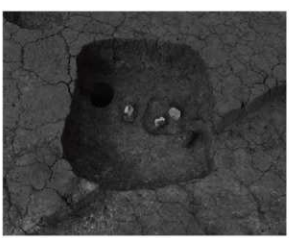
溝状遺構は溝１、溝２、溝４は直線的に掘削されているが、溝５は等高線に沿ってやや湾曲している。溝３と溝２の重複関係は不明確である。

小　結

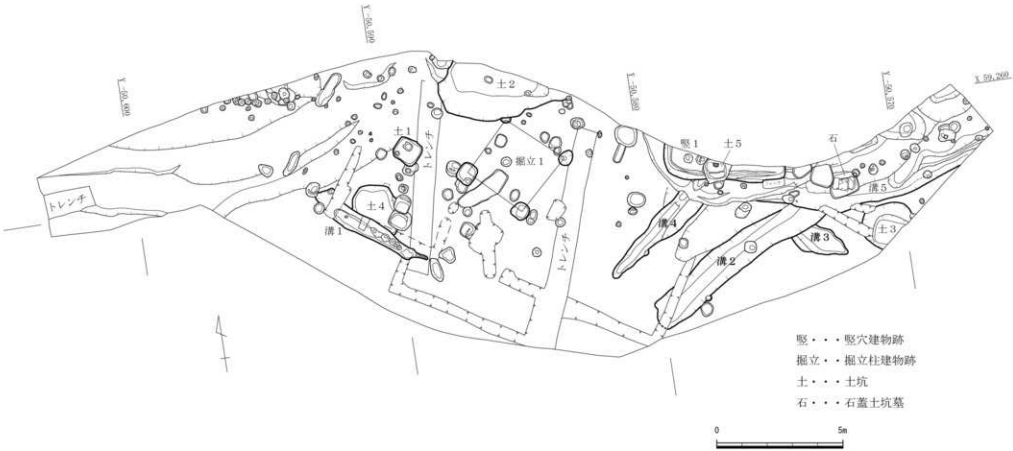
これらの遺構の検出状況およびこれまでの発掘調査の成果などから、仁王手Ｂ遺跡での集落の変遷が明らかとなった。当遺跡が展開する丘陵では、弥生時代前期から中期にかけて頂部を居住域として利用し始めたことから多数の貯蔵穴群が形成され、また、弥生時代後期から古墳時代にかけて、集落規模の拡大とともに丘陵南斜面に竪穴住居が造られる一方、北斜面が墓地として利用された状況が看取される。その後、居住地や墓地としての利用は途切れるが、平安時代に至ると短期間ながら丘陵尾根の南側に小規模な墓地が営まれたと見られる。中世以降は山林や原野に戻る時期もあったようだが、主に農地として利用されたものと考えられる。斜面を開墾して畑地が開かれ、近世から近代にかけてほぼ現況の地形が形作られたものと推察される。（吉田）

４．掘立柱建物跡（南から）

５．竪穴建物跡・５号土坑（南から）



６．１号土坑（南から）


X 59,260
X 59,280
X 59,300
X 59,320
トレンチ
土1
土2
土3
土4
土5
溝1
溝2
溝3
溝4
溝5
掘立1
竪1
石
竪・・・竪穴建物跡
掘立・・掘立柱建物跡
土・・・土坑
石・・・石蓋土坑墓
0
5m

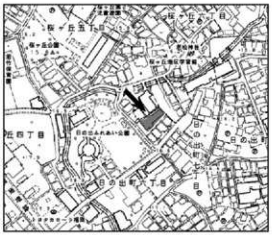
7．遺構配置図（1/150）

5　須玖楠町遺跡（３次調査）

所 在 地　春日市日の出町７丁目 20 番

調査面積　496 ㎡

調査期間　2019 年９月 24 日～ 2020 年１月 31 日



1．調査地の位置（1/5000）

須玖楠町遺跡は、春日丘陵北側の低地に位置し、諸岡川右岸に位置する。遺構面の標高は 16 m前後である。

本遺跡は須玖遺跡群の北部に位置し、周辺には、須玖永田Ａ遺跡、須玖黒田遺跡など青銅器生産遺跡がある。本調査区の北側に隣接する１次調査では、古墳時代初頭の居館跡の可能性がＬ字状に屈曲する溝（５号溝）や、掘立柱建物跡などが確認された。

今回の調査は寄宿舎建設に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

３次調査では、掘立柱建物跡８棟以上、土坑１基、溝８条、井戸１基、ピットなどを検出し、弥生土器、土師器、石器などが出土した。

2．調査区全景（上が北）

調査区東部で確認された南北方向に延びる１号溝は、最大幅 1.6 m、深さ 0.5 mを測る。土層からは、何度か掘り直しが行われていたことがわかる。出土した遺物から、この溝は、歴史時代に水路として使われていたと考えられる。また、１次調査の２号溝に続く溝で、さらに南に延びると考えられる。調査区北部から南へ延びる２号溝は、１次調査で確認された５号溝に続くものである。最大幅 1.8 m、深さ 0.4 mを測り、砥石や石包丁の他、多量の土器がまとまって出土した。

２号溝の東側で掘立柱建物跡を１棟、西側で７棟確認した。２号掘立柱建物跡は、１間×２間であり、そのほかは１間×１間である。特に調査区南西部を中心に確認された掘立柱建物跡は、建物が重複することから、何度か建て替えが行われたことが推測される。中には、掘立柱建物跡が調査区外に広がるものもある。

調査区西部で検出した井戸は、約 1.2 × 1.6 m、深さ 1.15 mを測り、下層から完形の高坏や木片が出土した。

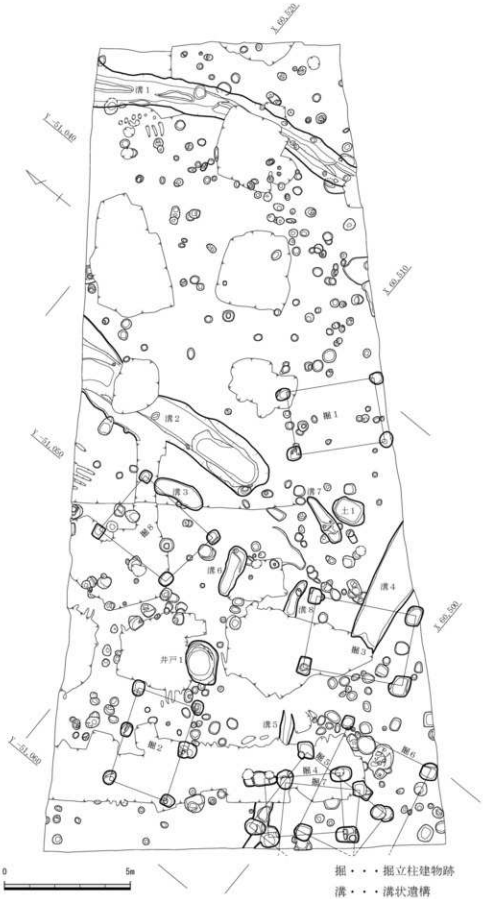
小　結

今回の調査で、１次調査で検出された遺構がさらに南に広がっていたことを確認した。当遺跡の周辺に位置する須玖永田Ａ遺跡や須玖黒田遺跡などでは、青銅器生産関連遺物が出土している。２号溝からは、鋭利なものを研いだ痕跡のある砥石が出土したことから、周辺遺跡との青銅器生産の関連性がうかがえる。また、掘立柱建物跡が２号溝の南西部を中心に確認されたことは、Ｌ字状の溝の性格を考えるうえで重要であり、大変貴重な調査となった。（熊埜御堂）

３．１号溝土層断面（北から）

４．２号溝土器出土状況（北から）

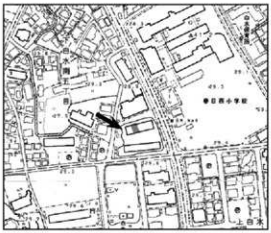
５．１号井戸（南から）


溝1
溝2
溝3
溝4
溝5
溝6
溝7
溝8
掘1
掘2
掘3
掘4
掘5
掘6
掘7
土1
井戸1
0
5m
掘・・・掘立柱建物跡
溝・・・溝状遺構
土・・・土坑

6．遺構配置図（1/150）

6　寺田・長崎遺跡（11 次調査）

所 在 地　春日市下白水南５丁目 21 番、22 番
調査面積　105 ㎡
調査期間　2020 年２月３日～ 2020 年３月５日



1．調査地の位置（1/5000）

寺田・長崎遺跡は春日丘陵西側の台地上に立地し、遺構面の標高は 28．5 m前後である。過去の調査では、主に本調査区の北側及び北西側を中心に、弥生時代中期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、甕棺墓などを確認している。特筆されるのは、本調査区より北西側で確認された直径 10 mを超える大形の円形竪穴建物跡である。また、本調査区の南側では、弥生時代の他に中世の遺構も確認されている。

今回の調査はガソリンスタンド及び店舗建設に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

11 次調査では、掘立柱建物跡１棟以上、土坑２基、ピットを検出し、弥生土器が出土した。また、

2．調査区全景（上が西）

須恵器は包含層及びピットからの出土である。

調査区北東部で検出した１号土坑は、西側が攪乱によって削平されている。平面形が不整形であり、残存約 1.1 × 0.85 m、深さ 0.45 mを測る。上層から弥生土器が出土した。

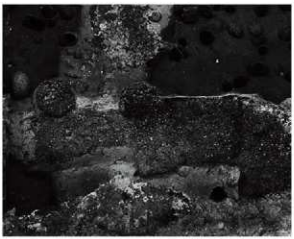
また、調査区西部壁際で検出した２号土坑は調査区外に続くものである。平面形は不整形な形をしており、残存約 1.2 × 0.6 m、深さ 0.6 mを測る。

このほか、調査区内で多数のピットを検出し、弥生土器片や須恵器片が出土したが、ピット１からは、表面を磨いた円筒状の土器が出土した。

調査区の南東部で掘立柱建物跡を確認している。桁行 3.2 m、梁行 2.75 mの１間×１間で、柱掘方は円形に近い形をしている。２つの柱穴は後世の攪乱を受け、そのうち１つは消滅していた。

小　結

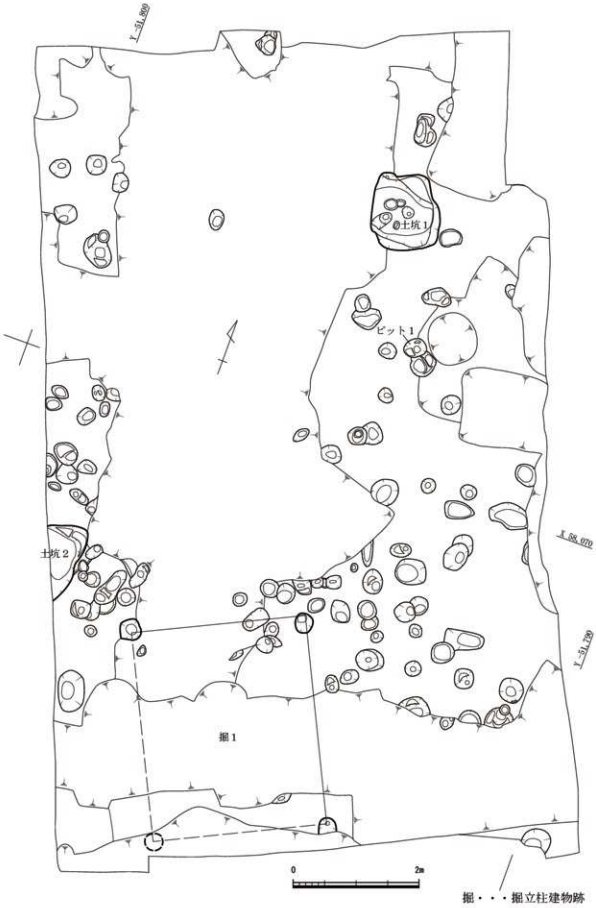
今回の調査では、調査区内の広い範囲で遺構が破壊されていたため、遺跡の全容を把握することが困難であった。しかしそのような状況でも、弥生時代中期の土坑を確認したことで、調査区の北側及び北西側で確認された弥生時代中期の集落がさらに南に広がることがわかり、大変貴重な調査となった。（熊埜御堂）



３．１号掘立柱建物跡（上が北）

４．１号土坑（上が西）

５．２号土坑（上が西）



6．遺構配置図（1/60）

7　中白水遺跡（16 次調査）

所 在 地　春日市上白水６丁目 140 番
調査面積　92 ㎡
調査期間　2020 年２月５日～ 2020 年３月 25 日

中白水遺跡
上白水
中白水
中白水
中

遺構・遺物

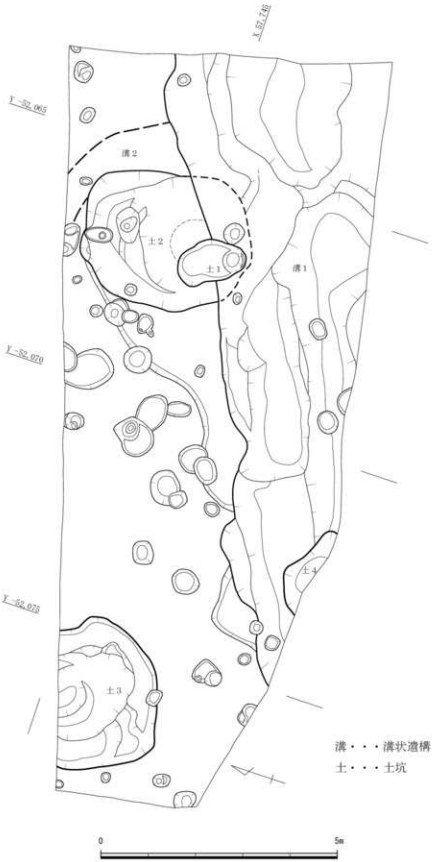
今回の調査では４基の土坑と２条の溝、ピット多数を確認した。いずれも江戸時代以降に造られた遺構と考えられる。この内、特に注目される遺構は２号土坑で、江戸時代に廃絶し埋められた井戸と見られる。掘方は約 3.6 m × 2.8 mの楕円形を呈し、検出面からの深さは約 2.4 mを測る。井戸枠は抜き取られていたが、最下部の浄水装置と考えられる木桶が残存していた。３号土坑、４号土坑も覆土の状況が共通しており、２号土坑と同様の井戸である可能性が高いものと考えられる。１号土坑は近代の遺構である。調査区の南部を東西方向に走る溝１は２号土坑、４号土坑の埋没後に造られており江戸時代に掘削されたと考えられるが、遺物の出土状況から最終的には明治時代以降に埋没したことが確認される。２号土坑の東側を南北に走る溝２も江戸時代の遺構と考えられるが、出土遺物や遺構の重複状態からは、溝１および２号土坑よりも古いことが明らかである。

３．２号土坑（井戸枠）

４．溝１発掘風景

小　結

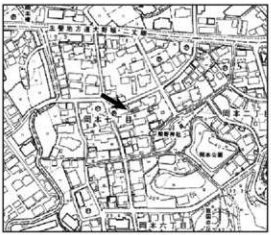
今回の発掘調査で検出した遺構には、青磁・白磁、輸入陶磁器や茶道具など単なる農村の集落ではあまり出土することのない遺物が多く含まれていた。先述した威徳小庵と直接的な関連があるかについては、確証を得るには至らないものの、遺構の時期、性格など複雑な様相を示す中白水遺跡にあって、近世から近代にかけて上白水村の集落形成過程を考察する上では、大きな手掛かりが得られた貴重な調査例となったものと評価できよう。（吉田）



5．遺構配置図（1/80）

8　須玖岡本遺跡岡本地区（22 次調査）

所 在 地　春日市岡本７丁目 75 番地
調査面積　38.1 ㎡
調査期間　2019 年 11 月 19 日～ 29 日



1．調査地の位置（1/5000）

須玖岡本遺跡は、昭和４年の京都帝国大学による発掘調査以降、九州大学、福岡県教育委員会、春日市教育委員会によって多数の調査が行われてきた。

今回の調査は、王墓の南側約 20 ～ 30 m に位置し、墳丘墓が確認された岡本地区７次調査地点の東側にあたる。個人専用住宅の建設を目的とした調査のため、開発予定場所において人力によるトレンチ調査を行った。

遺構・遺物

当初トレンチは、開発予定地の南側の標高が高くなることから、南北方向に２本設定した。その後、両トレンチで遺構がほとんど確認出来なかったため追加で東西方向に１本設定し、合計３カ所の調査を実施している。

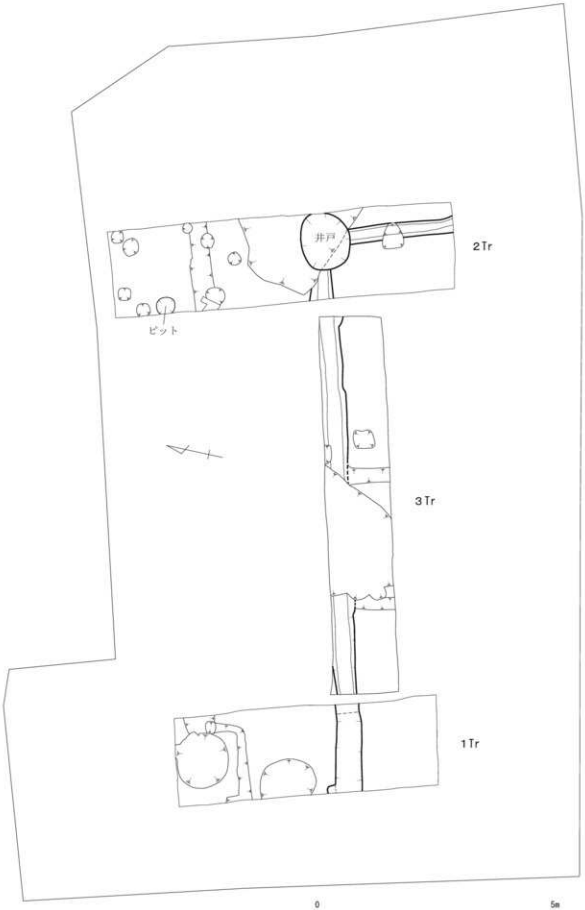
トレンチ内は、南側では白色の花崗岩風化土、北側では通称「雀の卵」の混じる黄褐色土の地山が確認でき、旧地形が南から北に向かって傾斜するところを平坦に削られた状況だった。

2．2トレンチ（北から）

検出した遺構は井戸１基、溝１条、ピット１個である。出土遺物から主に近代以降に属すると思われる。井戸とピットは第２トレンチで検出した。井戸はトレンチの中央で確認した。検出規模１m × 1.2 mの円形で、上層からは古代の平瓦、近代～現代の陶磁器、木片が出土した。途中で水が湧き出したため完掘していない。幅 44 ㎝の溝は、第１～３トレンチを通して東西に延びる。この溝には南側に向かって延びる溝が３条付随する。遺物は弥生土器、近代の瓦等である。土地所有者に聞き取り調査を行ったところ、今回の調査地の南側には過去に民家が存在しており、井戸や溝はその民家に伴うものである可能性が高い。

小　結

今回の調査では、地形が大幅に改変されており弥生時代の遺構は確認できなかった。しかし、出土遺物には摩滅した弥生土器や古瓦等があり、周辺の調査事例同様、継続的に土地利用が行われていたと考えられる。今後の周辺の調査結果を待ちたい。（山崎）



3．遺構配置図（1/80）

Ⅲ　文化財普及啓発事業

（平成31年4～12月、令和2年1～3月）

1　企画展示等

①　トピック展示

テーマ　「須玖岡本遺跡20次調査の銅剣と把頭飾」

会　期　5月11日（土）～5月26日（日）

会　場　春日市奴国の丘歴史資料館　特別展示室

入館者　366人

②　考古企画展

テーマ　「小水城を発掘する」

会　期　9月14日（土）～10月27日（日）

会　場　春日市奴国の丘歴史資料館　特別展示室

入館者　3,018人

関連講演会

日　時　10月12日（土）14:00～16:00

演　題　「朝鮮半島の古代山城と水城跡」

講　師　亀田　修一（岡山理科大学教授）

会　場　春日市奴国の丘歴史資料館　研修室

参加者　70人

③　民俗企画展

テーマ　「灯りのかたち」

会　期　1月18日（土）～3月1日（日）

※新型コロナ感染拡大防止のため2月29日より臨時休館

会　場　春日市奴国の丘歴史資料館　特別展示室

入館者　1,589人

④　奴国の丘歴史公園絵画展・記念物100周年展

会　期　8月1日（木）～8月28日（水）

会　場　春日市奴国の丘歴史資料館　特別展示室

内　容　春日北中学校の生徒による歴史公園のスケッチを展示した。また、同会場にて、文化庁主催事業「記念物100年展」のパネル展示を行った。

トピック展示　展示風景

考古企画展　展示風景

考古企画展関連講演会

民俗企画展　展示風景

絵画展　展示風景

2　やきものづくり教室

毎月第２土曜日にウトグチのぼり窯体験広場で午前、午後各１回やきものづくり教室を実施した。（７月、８月、３月を除く）

参加者（年 17 回実施）合計　182 人

やきものづくり教室

3　ブラかすが（歴史散歩）

第１回　日　時　４月 20 日（土）　9:15 ～ 12:00

コース　奴国をみる

参加者　12 人

第２回　日　時　５月 19 日（土）　13:00 ～ 15:30

コース　ベースハウスをみる

参加者　18 人

協　力　ベースハウスの会

第３回　日　時　10 月 19 日（土）　9:00 ～ 15:00

コース　水城をみる

※雨天中止

第４回　日　時　２月 22 日（土）　9:00 ～ 16:30

コース　灯りをみる（民俗企画展関連企画）

※新型コロナ感染拡大防止のため中止

第１回歴史散歩

第２回歴史散歩

4　わくわく歴史体験（歴史体験教室）

第１回　土器をしる、つくる

日　時　７月 27 日（土）　9:30 ～ 12:00

場　所　春日市奴国の丘歴史資料館　実習室

参加者　22 人

第２回　土器をやく

日　時　８月 24 日（土）　9:30 ～ 12:00

場　所　春日市奴国の丘歴史資料館、歴史公園

参加者　22 人

第３回　和綴じ本づくり

日　時　11 月 23 日（土）　9:30 ～ 12:00

場　所　春日市奴国の丘歴史資料館　研修室

参加者　23 人

講　師　藤井　良昭（修理工房宰匠株式会社代表取締役）

土器をしる、つくる

土器をやく

第４回　しめ飾りづくり

日　時　12 月 14 日（土）　9:00 ～ 11:30

場　所　春日市奴国の丘歴史資料館　実習室

参加者　30 人

講　師　井上　久人（浦原八幡宮氏子）

第５回　むかし遊び

日　時　1 月 18 日（土）　9:30 ～ 12:00

場　所　春日市奴国の丘歴史資料館　研修室

参加者　14 人

講　師　春日市あそび名人の会

5　奴国の丘フェスタ

春日市には弥生時代の重要な遺跡が密集し、中国の歴史書に記された「奴国」（なこく）の中心地であったとされている。そうした歴史や遺跡を市民に広く周知し、理解を深めてもらうことにより、都市化の中で失われつつある郷土への愛着や誇りを育むことを目的として、歴史資料館の機能と隣接する歴史公園の景観を活かした様々なイベントを行った。

日　時　令和元年９月 27 日（土）

会　場　春日市奴国の丘歴史資料館、歴史公園一帯

来場者　約 2,200 人

6　学習支援活動

小中学校の授業や生涯学習活動の一環として資料館の展示見学や遺跡見学、体験学習の説明・指導を実施した。

市内小中学校	26 件（3,773 人）
市内中学校職場体験	3 件（13 人）
一般団体	47 件（832 人）

7　博物館実習

教育普及活動の一環として、大学から博物館学芸員課程における実習生の受け入れを行った。

大学	1 件（2 人）

和綴じ本づくり

しめ飾りづくり

むかし遊び

奴国の丘フェスタ

学習支援活動（見学）

8　出前講座等

自治会等が開催するイベント等への支援を行った。

自治会等　　13 件

9　ボランティア組織

奴国の丘歴史資料館および隣接する須玖岡本遺跡の見学者に案内・解説を行う資料館ガイドと、ウトグチのぼり窯体験広場で実施するやきものづくり教室を支援するやきものボランティアが組織されている。

資料館ガイドボランティア　　13 名

やきものボランティア　　21 名

10　資料貸出

考古資料等　　3 件

民俗資料　　1 件

古文書　　1 件

写真資料　　22 件

11　入館者数

奴国の丘歴史資料館　11,763 人

ウトグチ瓦窯跡館　　806 人

12　利用案内

開館時間　午前９時～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）

休館日　毎月第３火曜日（休日に当たる場合はその翌日）

年始年末（12 月 28 日～１月４日）

入館料　無料（特別展では有料の場合あり）

駐車場　無料駐車場有　22 台駐車可

交通アクセス　ＪＲ鹿児島本線　南福岡駅より徒歩 20 分

西鉄天神大牟田線　雑餉隈駅より徒歩 25 分

九州自動車道　太宰府インターより車で５㎞

春日市コミュニティバス

① 桜ヶ丘線　奴国の丘歴史資料館前下車すぐ

② 須玖線　　岡本１丁目下車徒歩５分

学習支援活動（現地説明会）

職場体験

博物館実習

出前講座

ボランティア養成研修

Ⅳ　附編（調査・研究報告）

1．須玖タカウタ遺跡４次調査石製鋳型の追加資料

1　はじめに

須玖タカウタ遺跡４次調査では、１号竪穴建物跡を中心に石製鋳型８点、土製鋳型 26 点が出土したことが報告された。石製鋳型は、滑石系の石材で占め、九州の一般的な鋳型石材である石英長石斑岩は見られなかった。また、土製鋳型については、今まで九州では筑前町東小田峯遺跡例１点が知られるのみで、当遺跡のようにまとまって出土した例はない。さらに、鋳型の中には、他に類例のない青銅器の鋳型や銅戈鋳型等のように一対になるものも含まれる。これらの鋳型群は、豊富な土器と共伴したため、最古級の青銅器生産を示す中期前半の資料であることが明らかになった。以上のことから九州の弥生時代の青銅器生産を再考するきっかけとなり、令和元年２月 21 日には市指定文化財になった。

今回報告する鋳型小片は、市指定の準備段階に新たに発見したもので、他の資料と同様に市指定文化財となった。

2　鋳型

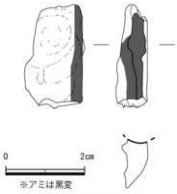
報告する鋳型小片は、竪穴建物跡の屋内土坑から出土した。なお、屋内土坑の内外からは他の鋳型類も集中して出土する。武器形青銅器の脊部鋳型で、型を中心に黒変するために鋳造されたことが分かる。小片のため傾き、天地などは断定できない。長さ 2.6 ㎝、幅 0.8 ㎝、断面形の厚さ 1.25 ㎝。石材は、肉眼観察では茶灰色を呈する滑石岩。

3　おわりに

本項では報告書から漏れた鋳型を報告した。小片のため器種までは断定できないが、武器形青銅器の脊部の鋳型で間違いない。他の鋳型との接合を試みたが、合致しなかった。石材から考えれば３号鋳型（銅矛／銅矛）ないし４号鋳型（有柄銅剣／銅剣）の同一個体である可能性がある。

当資料を含めると須玖タカウタ遺跡からは、石製鋳型９点、土製鋳型 26 点の合計 35 点の鋳型が出土したことになる。

鋳型写真



鋳型実測図（1/1）

2．民俗文化財の保存・活用

① 民俗文化財調査

春日市には、国指定重要無形民俗文化財である春日の嬉押しをはじめ、嫁ごの尻たたきや盆綱引きなどの様々な行事があるものの、近年の急激な社会構造の変化や継承する担い手の高齢化によって変容・衰退したものも多くみられる。また、絵馬や石造物といった有形民俗文化財も市内各所に見られるが、全容把握がされていない。そのため令和元年度から民俗文化財調査専門員を配置し、記録・保存を目的とした調査を実施した。

【調査内容】

〔無形民俗文化財〕

- 8月 3日（土）　盆綱引き（小倉地区）
- 8月 7日（水）　ドンカン祭り（岡本地区）
- 10月 17日（木）　秋祭り神事（熊野神社）
- 10月 17日（木）　例祭（住吉神社）
- 10月 20日（日）　宮座祭（春日神社）
- 1月 11日（土）　春日の嬉押し 準備（春日地区）
- 1月 12日（日）　春日の嬉押し 本番（春日地区）
- 1月 13日（月・祝）　春日の嬉押し 片付け（春日地区）

〔有形民俗文化財〕

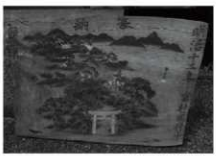
・絵馬調査　　・石造物調査（庚申塔）

【調査報告】

「盆綱引き（小倉地区）」については、福岡県「祭り・行事」調査の１つとして、福岡県「祭り・行事」調査委員会の田中久美子委員と協働で調査を実施した。また「春日の嬉押し」については、嬉押しの前日の準備から片付けまでの３日間の調査を行い、現在の実施状況の確認を行った。

ドンカン祭り

春日の嬉押し



絵馬（春日神社）

② 民俗資料（民具）整理作業

市に寄贈された民俗資料（民具）について、令和元年度から改めて整理作業を行うこととした。民俗資料（民具）の大きさや記銘、破損箇所、虫害などの状況を実際に確認した上で、写真撮影を行い、基礎的なデータを有形民俗文化財カードに記録する作業を実施した。また、収蔵スペースの環境調査や民具のクリーニングなども並行して実施した。この調査の成果は、企画展や民具の紹介資料、学習支援などで活用していきたい。

整理作業の様子

令和元年度

春日市文化財年報

発　行　日　令和３年３月31日
編集・発行　春日市教育委員会
福岡県春日市原町３丁目１番地５
印　　刷　大道印刷株式会社
福岡県春日市日の出町６丁目23番地